写真：BAM部の活動地域である埼玉県本庄市の放置竹林

BAM部について

活動理念

地域の社会課題を持続可能なサイクルで解決する

私たちは単なる「ボランティアサークル」ではなく、「課題はすなわちニーズである」という考えのもと、地域の課題を大きなニーズと捉え、お金の回る仕組みを考えながら地域の社会課題解決に向けた取り組みを行っている。

ロゴマーク

発足のきっかけ

埼玉県本庄市の農家との繋がりの中で、地方における様々な社会問題の一つに「放置竹林問題」があることを知る。
竹の伐採やその利活用の提案であれば、大学生でも取り組むことができると確信し、地方創生のきっかけとなる活動としてこの「放置竹林問題」に取り組もうと、学生団体「BAM部」を発足させた。

活動内容

・農家の敷地内にある放置竹林整備
・竹を活用した商品の開発
・放置竹林問題に関する啓発活動

設立日

2020年7月7日

代表者

大井晃亮

メンバー数

25名（早稲田大学、明治大学、東京農業大学、神戸大学）

活動について

1.放置竹林に悩んでいる農家へコンタクトを取る

現在は二か所の竹林整備を担当。
今後は、活動地域を関東全体に広げながら
活動を実施する予定。

2.日時を調整し、学生が竹林の伐採を行う

竹林保有者と日時を調整し、09:00から16:00頃まで
竹林の整備を行う。活動は、BAM部のメンバー
のみではなく、地域のNPO法人や他のサークル・
学生団体等に協力を要請し、共に活動をすることも。

3.伐採した竹を用いて竹製品を製作

状態の良い竹はコップやカトラリー等に加工したり、
竹あかり、スピーカーなどの製品の加工に利用する。
現在は主に「竹炭」をつくり、JAに一括買取を行って
もらっている。

出典:ちかけん

活動の関係者

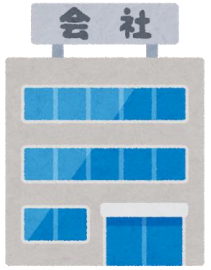
☆竹林事業を通じて関わる人々

JA
農協

学生

BAM Boo部

BAM部



企業

農家

行政

地域創生に関わる熱意のある人

「竹」をきっかけに
幅広い「地域創生」
の活動へ発展させる！

今後の活動

放置竹林への対処

引き続き、竹コップやカトラリー、竹スピーカーなど、「竹」を用いた様々な**商品を開発**し、竹の利活用を提案する。また、「放置竹林問題」があることをより多くの人に知ってもらうための**啓発活動**を行う。

農業の活性化

竹炭を用いた土壌改良剤を量産化し、更に竹チップによる肥料の製造、防虫効果のある竹酢液を製造し、これらを用いて**環境にやさしい有機農業**ができるように、**竹林保有者の農家や、地域に還元**する。

賑わい創出

伐採した竹を活用して「竹あかり」を製作し、**地域でイベントを開催**する。他にも、竹を用いた**工作教室を子どもたちへ向けて開催**したりすることによって、**地域の賑わい創出**につなげる。

「竹」をきっかけに地方を元気に！